

魚の繁殖生態(2)

マダイの繁殖行動をビデオカメラで調査しました。繁殖期になると、雌は桜色のままですが雄の体色は黒色化します。産卵時刻である夕方にかけて、黒色化は一段と強くなります。黒色の濃い個体が水槽内を上下左右活発に遊泳する様は、他の雄を威圧するとともに、自身が強い雄であることを雌にアピールしているようにも見えます。産卵行動は、雌1尾の放卵に対し複数の雄が一斉に放精するというものでした。ここで紹介した内容の映像は、海生研ホームページでご覧になることができます。



繁殖期のマダイ (上が雌、下が雄)

財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明を中心に海洋環境中の放射能や化学物質の実態把握等の調査研究を国や民間からの委託を受けて実施しております。

海の豆知識 第25号

平成17年10月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 帝国書院ビル5階 ☎(03) 5210-5961
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎(0470) 68-5111
実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎(0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。
<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識

Vol.25

??? 魚のことわざ ???



財団法人 海洋生物環境研究所

魚のことわざ

(その23)

——カレイ——

海とその生物にまつわる^{ことわざ} 諺や格言^{かくげん}についてお話ししましょう。

今回のテーマは鰈(カレイ=カレイ目=カレイ科)です。

英語ではFlatfishまたはFlounderと呼ばれる。一口にカレイと言っても世界に100種前後生息しており、日本近海には約40種のカレイが分布しています。Flatfishと言う名前の通り、カレイ類の体は楕円形で著しく側偏しており、一般に「左ヒラメに右カレイ」と言われ大部分のカレイは体の右側に両眼があります。カレイ類は普通海底の砂の中に潜っているので、主な漁法は底曳き網や刺し網で漁獲され、また遊漁対象として釣りで漁獲されています。

主な利用方法としては、白身魚であり刺身や塩焼き、煮付け、唐揚げ、フライと幅広く親しまれています。

1



「鰈の合わせは聴き合わせ」

「鰈は無精者の釣り」といわれて、早合わせでは釣れない。かといって放っておいたのでは餌が動かずカレイの食い気が悪く、釣れてもハリを飲み込まれて能率が悪い。そこで、時々糸を引いたり張ったりしてカレイの食欲を誘い魚信(アタリ)を確かめる。これを「聴く」という。



2



「霜月マコ」

11月、すなわち、冬の真子鰈のこと。東京湾では11月から翌春まで釣れ盛り、産卵のため浅場に寄って来るので「登りマコ」ともいう。大分県別府湾では、真子鰈のことを「城下鰈(シロシタカレイ)」と呼ぶ。日出(ひじ)の町の城跡の海に淡水の湧く所があり、ここに集まって来る真子鰈を特に美味とし、「城下鰈」と名付けて賞味する。

3



「夏座敷と鰈は縁側がよい」

夏は暑いので座敷よりも、縁側の方が風通しがよく涼しくて上座に当たる。カレイの場合も、一般には真ん中の身(肉)を上等とするが、端にある縁側に当たるヒレの部分の方が味がよい、ということ。冷房設備や扇風機もなく、団扇が幅を利かせていた頃の諺であろう。